

ますが、私自身の住まいは朝霧高原エリアでも山林にあり、ガスも水道もない、ただ電気が通っているだけの生活をしています。

実際には薪ストーブと井戸水、そしてオール電化のスタイルです。食事や入浴すべての熱源を電気にて行っています。光熱費は意外と安くおさまっています。水は敷地内にある4つの井戸のうち最も深い約60mの水脈から引いています。1つの井戸は災害用で昔ながらの手動式ポンプです。普段用いている水は一般家庭と同様に蛇口をひねると出てきますので、マンション生活と違和感がありません。

さて薪ストーブですが、私は朝霧高原に来て初めて使うことになりました。薪ストーブにも種類やサイズがいろいろありますので、ストーブ専門店と相談して選出しました。自宅ではヨツール社（ノルウェー製）の薪ストーブを使っていますが、薪の出し入れや管理がとても楽で、真冬の2月に引越しをした私にも十分に扱えました。部屋全体が暖かく、炎も心が安らぐ感じで、こんなにも心地よいものかと驚いています。

薪ストーブにおいて重要なのが、燃料としての薪の確保です。薪になる木材は、建築現場で出る廃材や、敷地内の山林から集めたり、間伐のお手伝いで入手したり、購入することもできます。標高約700mに位置するわが家では、この夏クーラーが必要なかつたのですが（実際にエアコンがない）、一方で薪ストーブを使用する期間は長く、この辺りでは10月中旬から4月中旬までの約半年間になります。

薪は大量に確保しなければなりません。主暖房として、一冬での薪の消費量は、延べ床面積100㎡の木造住宅で夕方から深夜にかけて使用したとして、約240〜360束といわれています。

薪には大きく分けて広葉樹と針葉樹があり、一般的には火力の点で広葉樹の使用が勧められています。しかし、実際の燃焼実験では燃焼時間には変わりがなく、ダスト濃度やタール分は針葉樹が多いものの、大気汚染の原因にもなる窒素酸化物



診療の合間に薪の確保

は針葉樹のほうが少ないという結果があります。代表的な広葉樹としてコナラ、クヌギ、クリ、ケヤキが、針葉樹としてはスギ、ヒノキ、アカマツなどがありますが、朝霧高原エリアではスギやヒノキの林が大変に多く入手しやすく、特に間伐の期間には、薪になる材木が多く出ますので、地産地消が可能なのです。

9月後半ごろにもなると朝霧高原の朝晩は冷えることが多くなります。前述のように薪の確保は重要なのですが、燃焼効率やストーブのメンテナンス上、より良質な薪であることが求められます。良質な薪とは、まず乾燥していることです。そのほか、樹木の種類によって火力や着火性、炭化のしやすさ、煙の多さに差はあるものの、やはり乾燥していることが最重要です。

この点で「朝霧」と地名についているように霧が多く、特に猪之頭という地域は富士山湧水群でもある水源であり、湿度対策が必要です。実際、乾燥したつもりの薪に、苔が生えてしまったこともあり、薪小屋などの保管（乾燥）場所をいろいろ工夫しなければなりません。

このようなライフラインでの田舎生活を始めてみると、薪がたくさんあることが豊かな指標になります。地域を運転している時や歩いていて、薪棚に薪がいっぱいある家を見るとうらやましくありません。また、広い畑や山林、水源などのある家は、国でいうと石油産出国であり、高級車やさまざまなブランド品に勝る豊かさの象徴に思えるのです。このよなな生活を通して、新しい価値観が構築されつつあるように感じます。

隔週水曜日掲載の連載です。次回は11月4日に掲載致します。

Profile：山本 竜隆

聖マリアンナ医科大卒。医師・医学博士。アリゾナ大統合医療プログラムを経て、田舎&予防の地域活性型統合医療の構築を目指して活動中。